

# 獅子舞あり、舞楽あり、ウィンナワルツあり 横浜のニューイヤーと言えば、やっぱりこれ



来場者を熱烈に歓迎する大迫力の獅子舞、優雅な和の美を体現する舞楽(舞い付きの雅楽)に、そして軽やかで楽しく、どこまでも気品溢れる本家本物のウィンナワルツ…横浜ニューイヤーの定番!横浜みなとみらいホール・オープニング・コンサートがこの初春も開催されます!

“ワルツ王”J.シュトラウス二世が創設し、まさにシュトラウス一家の「真髄」が聴けるオーケストラ、ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団と指揮者兼ソロ・ヴァイオリニストのヨハネス・ヴィルトナーによる気品と楽しさ溢れるステージを、すでにご存知の方も多いでしょう。定番ながら、同時に少しずつ曲目、演出を変えて楽しませてくれる彼ら。今回はどのように横浜のニューイヤーを飾

## 獅子舞はロビーでも大暴れ!!



## 日本伝統の美を堪能



てくれるのか、注目です!

そして今回も開場時に大迫力の中華獅子舞が登場! 噛まれると魔除けのご利益がある獅子舞に、思い切って噛まれてみるのもいいかも!? 休憩時には繊細でたおやかな美を魅せる舞楽も登場し、お帰り時にはお年玉のオリジナル・グッズも用意。オープニング・コンサートの贅沢さは、今回も変わりません!

2021年1月からは横浜みなとみらいホールの大規模改修が行われるため、次はいつ観られるかわからない…かも!? 横浜名物の贅沢ニューイヤー、お見逃しなく!!

## ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団

Wiener Johann Strauss Orchester

ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団は、その前身ヨハン・シュトラウス管弦楽団として、1844年に弱冠19歳の「ワルツ王」ヨハン・シュトラウス2世により結成され、世界中で愛されるウィーン音楽を生み出した。ウィンナワルツを演奏する真の楽団として現在でもなおその伝統を継承し、その確固たる地位を確立している。初代音楽監督シュトラウス2世は、「美しく青きドナウ」作曲後、ワルツ、ポルカ、マズルカ、カドリールなどを携えたツアーで大成功をおさめた。楽団は多忙を極めたシュトラウス2世から弟エドゥアルトに引き継がれ、さらにその活躍の場を世界に広げた。その後、エドゥアルト1世の孫で「ワルツ王」シュトラウス2世の又甥にあるエドワルド2世の時代に、「ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団」と改称し、ウィーン・フィルのニューイヤー・コンサートで有名な名物コンサートマスターのウィリー・ボスコフスキーの時代にその名声をさらに高めていった。そして、ゴールドシュミット、ヴェス、エシュヴェ、ジークハルト、ルードゥナーなどの著名な指揮者を招いて、「ワルツ王」シュトラウス一族が築いたウィンナワルツの伝統を今に受け継ぎ、聴衆を魅了し続けている。

## ヨハネス・ヴィルトナー (指揮&ヴァイオリン)

Johannes Wildner, Conductor & Violin

元ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリニスト。国立コシツェ・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ国立歌劇場、ライプツィヒ歌劇場などの首席指揮者を経て、1997~2007年ノイエ・フィルハーモニー・ヴェストファーレンの総合音楽監督を務め、2010~2014年にはBBCコンサート・オーケストラの首席客演指揮者も務めた。また2014年からはウィーン郊外のガルス城で行われる夏恒例のオペラ・フェスティバル「ガルス野外オペラ」の総監督を務めている。これまで、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、バイエルン放送交響楽団、北ドイツ放送交響楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン交響楽団などを指揮し、2008年よりウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団への客演を始め、ウィーン楽友協会ホールなどで公演を行い、好評を博している。100枚以上のCDやDVDをリリースする一方、オペラの指揮にも力を注ぎ、アレーナ・ディ・ヴェローナ「カルメン」、新国立劇場「こうもり」など各地で大成功をおさめ、近年は、毎年本楽団と共に来日し、指揮者としても各地で名声を高めている。

## Program

喜歌劇「ジプシー男爵」序曲 (J.シュトラウスII)  
 ポルカ・シュネル「突進!」(J.シュトラウスII)  
 ワルツ「うわごと」(ヨーゼフ・シュトラウス)  
 ポルカ・マズルカ「とんぼ」(ヨーゼフ・シュトラウス)  
 ポルカ・シュネル「雷鳴と電光」(J.シュトラウスII)  
 ワルツ「ウィーン気質」(J.シュトラウスII)

.....

喜歌劇「くるまば草」序曲 (J.シュトラウスII)  
 ワルツ「もろびと手をとり」(J.シュトラウスII)  
 クラップフェンの森で (J.シュトラウスII)  
 歌劇「騎士バズマン」よりチャルダッシュ (J.シュトラウスII)  
 「ピチカート・ポルカ」(ヨーゼフ&J.シュトラウスII)  
 ポルカ・シュネル「観光列車」(J.シュトラウスII)  
 ワルツ「美しく青きドナウ」(J.シュトラウスII)

※やむを得ない事情により出演者、曲目、曲順が変更になる場合があります。予めご了承ください。



往時の  
ウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団